

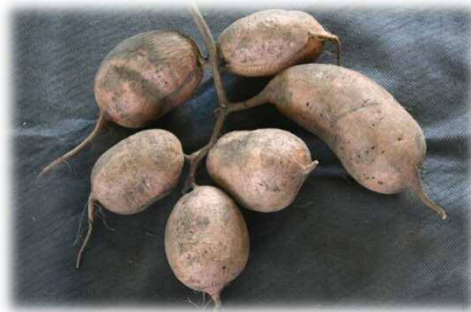
最新

お役立ち情報

総合版
(R01)

～鹿児島県農業で活用いただきたい新品种・新技術(平成30年度普及情報)～

どんどん鹿児島



①サツマイモ「こないしん」



②サトウキビ「Ni27」



③サトイモの湛水栽培



⑤八重咲きテッポウユリ「咲八姫」
さくやひめ



「しまあかり」



④サトイモちいも分離機



「しまクイーン」

⑥県育成ジャガイモ新品种



⑦ヒメハナカメムシ



⑧シルベストリコパチ



おうほん
⑧横斑プリマスロック雌種鶏

- ①でん粉原料用サツマイモ新品种「こないしん」
- ②サトウキビ「Ni27」の奄美地域における夏植え+株出し体系での収量性
- ③サトイモの優良種いも増殖に有効な湛水畝立て栽培法
- ④高効率！簡単操作！サトイモちいも分離機
- ⑤八重咲きテッポウユリ「咲八姫(さくやひめ)」の育成
- ⑥鹿児島県が育成したジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有する丸系ジャガイモ「しまあかり」、長系ジャガイモ「しまクイーン」

- ⑦土着天敵の機能を引き出す新たな植生管理技術でスナッフエンドウの害虫被害軽減
- ⑧チャトゲコナジラムの天敵の早期定着を図る放飼地点間隔
- ⑨横斑プリマスロック雌種鶏の産卵率向上技術

鹿児島県農業開発総合センター

農業開発総合センター

検索



目次

○作物に関する情報 1～2P

- ・でん粉原料用サツマイモ新品种「こないしん」
- ・サツマイモ小苗栽培体系及び施肥法
- ・ステアリングアシスト装置搭載トラクタによるサツマイモ畝立
- ・普通期水稻に対する牛ふん堆肥の施用と被覆尿素的側条施肥による低コスト施肥法
- ・新規生分解性マルチ資材を用いたサトウキビの省力的栽培技術
- ・種子島サトウキビ畑の中和石灰量早見表
- ・サトウキビ「Ni27」の奄美地域における夏植え＋株出し体系での収量性

○野菜に関する情報 3～8P

- ・宙吊り型イチゴ用出荷容器による輸送性向上効果
- ・露地スナップエンドウの年内どり及び4～5月どり作型における最適枝数
- ・ハウス長期どリスナップエンドウの作式改善による増収対策技術
- ・土着天敵の機能を引き出す新たな植生管理技術でスナップエンドウの害虫被害軽減
- ・1～2月どりレタスの有望品種と地帯別、被覆法別定植適期の推定
- ・加工・業務用キャベツを11月から5月に出荷する作型の適品種
- ・土壌の地力窒素レベルに応じたキャベツの窒素施肥量
- ・鹿児島県が育成したジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有する丸系ジャガイモ「しまあかり」、長系ジャガイモ「しまクイーン」
- ・冬播き緑肥鋤込みによるジャガイモ増収効果
- ・ジャガイモ掘取り・緑肥播種を同時に行う省力的緑肥栽培技術
- ・4月どりニンジンの断根処理による収穫期延長技術
- ・熊毛地域におけるニンジンの無被覆・無マルチ栽培による4～5月どり技術
- ・桜島大根「桜島おごじょ」の全量基肥による省力施肥技術
- ・ダイコンのキスジノミハムシ防除に役立つ二層局所施薬機
- ・ダイコンのキスジノミハムシに対する2種粒剤の併用による散布回数の削減
- ・サトイモの優良種いも増殖に有効な湛水畝立て栽培法
- ・高能率！簡単操作！サトイモ子いも分離機
- ・根こぶ病抵抗性を有するナバナ新系統「鹿児島2号」の特性
- ・露地オクラ栽培で土着天敵を有効に活用するためのインセクタリアープランツの簡易利用法
- ・生物農薬「リモニカスカブリダニ」を施設野菜で効果的に使う条件

○果樹に関する情報 8P

- ・奄美地域におけるマンゴー「アーウィン」の少加温ハウス栽培

○茶に関する情報 8～9P

- ・緑茶用品種「せいめい」の炒蒸し製てん茶の品質特性
- ・茶園年間施肥体系における石灰窒素の活用
- ・ジアミド系薬剤に抵抗性を示すチャノホソガ
- ・長雨で秋芽のチャ炭疽病体系防除が困難な場合での殺菌剤混用効果
- ・チャトゲコナジラミの天敵の早期定着を図る放飼地点間隔

○畜産に関する情報 10P

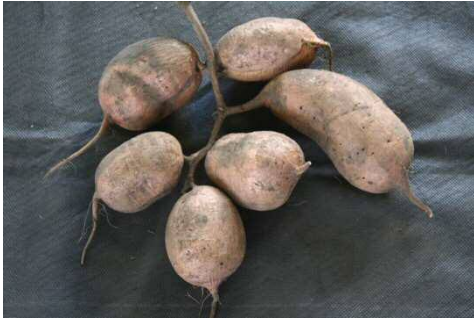
- ・遅播き栽培における飼料用トウモロコシ「PI2008(スノーデントおとは)」の栽培特性
- ・イタリアンライグラス極早生品種「ヤヨイワセ」の栽培特性
- ・横斑プリマスロック雌種鶏の産卵率向上技術

○花きに関する情報 10P

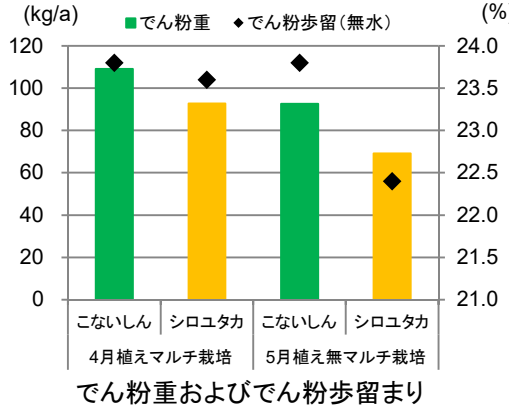
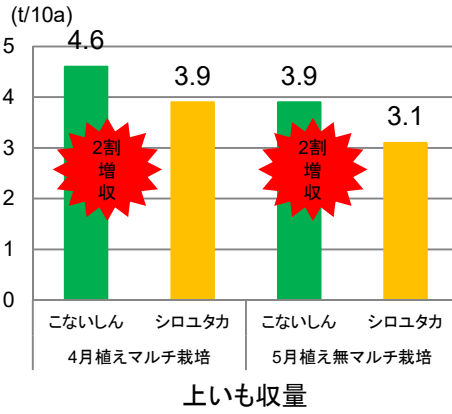
- ・八重咲きテッポウユリ「咲八姫(さくやひめ)」の育成

でん粉原料用サツマイモ新品種「こないしん」

大隅支場



「こないしん」のいも外観



特徴

- 多収で、でん粉重も多い
- でん粉白度は「シロユタカ」よりやや高い
- いもの皮色は茶橙、肉色は黄白
- つる割れ病抵抗性は「やや強」
- センチュウ抵抗性は「強～やや強」
- 貯蔵性が良い

適応地域

- 本土および熊本地域

(公募:イノベーション創出強化研究推進事業)

サツマイモ小苗栽培体系及び施肥法

大隅支場

栽培ポイント

- 「サツマイモ小苗栽培」は、育苗～移植作業を機械化一貫体系にして、省力化・規模拡大を図る栽培体系である
- 小苗は、苗長が15cmで短く、節数が4～6節と少ないため7～8節の慣行苗と同じ栽植密度ではいも個数が減少する
- そこで、小苗栽培は「密植する」、「栽培日数を確保する」ことで、慣行栽培体系並の収量が確保できる
- なお、小苗栽培の適正施肥量は、慣行栽培の基準と同じ窒素施肥量 8kg/10aとする



図1 サツマイモ慣行苗と小苗の比較

・小苗：茎長15cm、節数4～6節で曲がりがない

- 小苗栽培の育苗は、一斉採苗の技術を導入することで**育苗・採苗時間の大幅削減可能**
- 労働時間は慣行16.5時間に対して、小苗8.9時間で**7.6時間短縮**



・暑い中での選択採苗からの開放



図2 サツマイモ小苗栽培の育苗方法

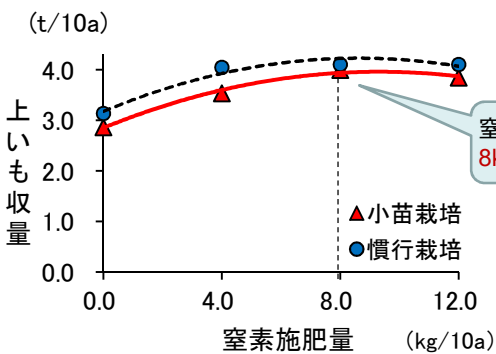


図3 窒素施肥量と上いも収量

小苗：一個重は重いですが、いも個数が少ないためやや減収

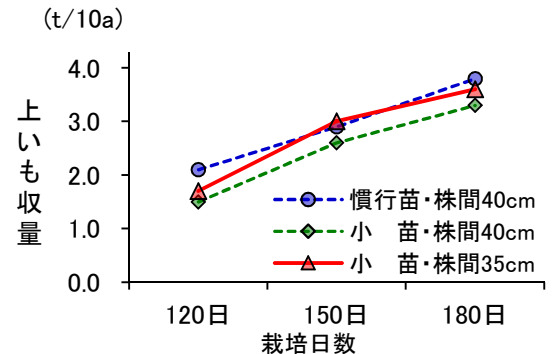


図4 栽植密度、栽培日数と上いも収量

小苗：密植して栽培日数を確保することで収量を確保

適応対象

原料用サツマイモ栽培農家

(公募型事業:革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト))

ステアリングアシスト装置搭載トラクタによるサツマイモ畝立

大隅支場

特徴

- アシスト装置は画像装置(カメラ+画像処理)、操舵装置(モータ、スイッチ)で構成
- アシスト方式は遠景直線アシスト(1行程目)、作業跡追従アシスト、マーカ跡追従アシスト(2行程目以降)の3種類
- 畝端で位置合わせし、スイッチオンで自動操舵



初心者でも熟練者並みの直線畝立が可能

適応地域

県内全域(三菱マヒンドラトラクタGS252/GM/GAシリーズ)に装着

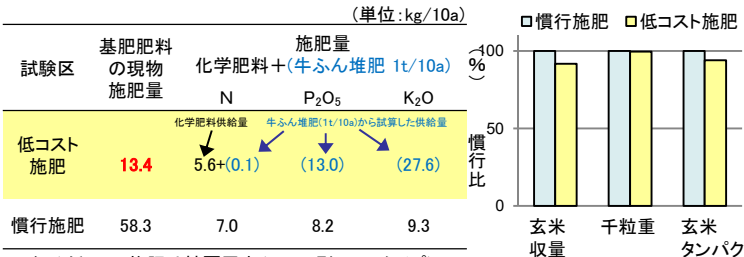
(公募型事業:革新工学C 高性能農業機械の地域適応性向上技術開発)

普通期水稻に対する牛ふん堆肥の施用と被覆尿素の側条施肥による低コスト施肥法

生産環境部

特徴

- リン酸とカリは牛ふん堆肥1t / 10aから、窒素は被覆尿素から供給する低コスト施肥法は、慣行施肥と同等の玄米収量・品質を確保できる
- 肥料コスト(堆肥散布料金を含む)を2割削減
- 基肥肥料の現物施肥量を1/4に軽量化



適応地域

県内全域 (環境と調和した栽培技術確立事業)

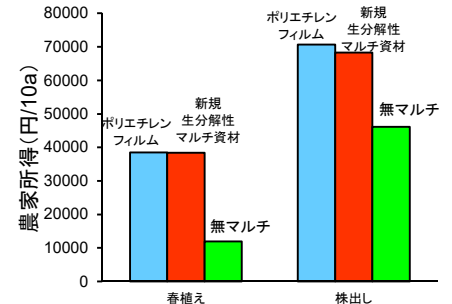
新規生分解性マルチ資材を用いたサトウキビの省力的栽培技術

熊本支場

特徴

- 保温性能はポリエチレンフィルムと同程度
- マルチ除去労力と廃プラ処分費用が不要
- 培土作業で土中に埋めると、収穫期頃までには分解
- 粗収益から生産費を差し引いた所得はポリエチレンフィルムとほぼ同等

○生分解性フィルム
土にすき込むことで、加水分解や土壌微生物の出す分解酵素の働きにより、水と二酸化炭素に分解されるフィルム



適応地域

種子島

(公募:県糖業振興会)

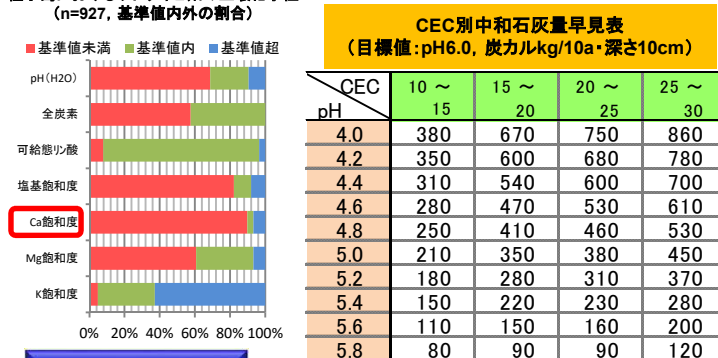
種子島サトウキビ畑の中和石灰量早見表

生産環境部

技術ポイント

- 島内サトウキビ畑の9割が石灰不足, 要酸度矯正圃場が多数
- 土壌pHとCEC値※から, 必要な石灰施肥量が簡単にわかる
- CEC値は土層改良事業など既存の分析値を活用すると便利

種子島におけるサトウキビ畑の土壌化学性 (n=927, 基準値内外の割合) ※陽イオン交換容量(土壌分析項目の一つ)



適応地域

種子島

サトウキビ「Ni27」の奄美地域における夏植え+株出し体系での収量性

徳之島支場

特徴

- 夏植え+株出し体系の原料茎重はNi27がNiF8を上回る
- Ni27の夏植えは12月に収穫しても、原料茎重はNiF8より多い
- 12月収穫後に株出し管理をすることでNi27の原料茎重は安定

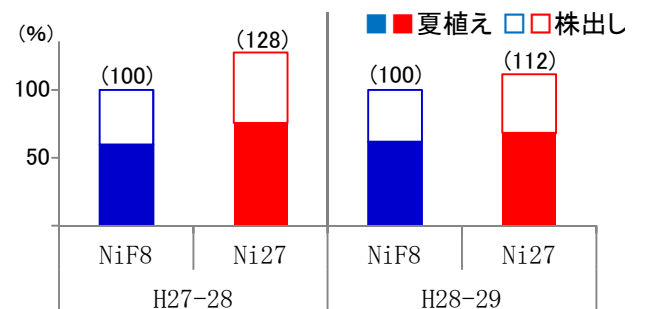


図 夏植え+株出し体系の収量割合と比率

適応地域

奄美地域

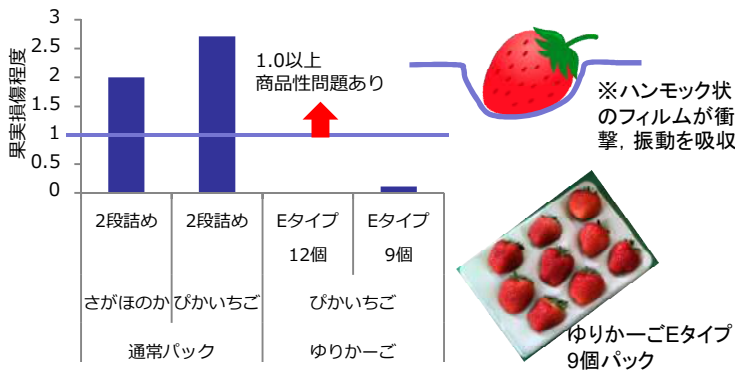
(公募:革新的技術開発・緊急展開事業)

宙吊り型イチゴ用出荷容器による輸送性向上効果

園芸作物部

技術ポイント

○宙吊り型イチゴ用出荷容器を利用することで果実(びかいちご)の損傷程度を大幅に軽減することができ、輸送性向上



適応地域

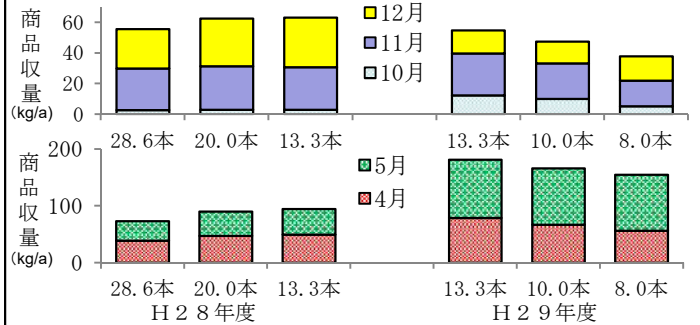
県内全域

露地スナップエンドウの年内どり及び4~5月どり作型における最適枝数

園芸作物部

技術ポイント

○播種穴15cm間隔で一穴2粒播種し、m当たり枝数を13.3本/mに調整することで安定した収量を確保
○主枝は一本仕立てとする
○株欠損の場合、近隣株の下節位分枝を利用して枝数を確保



適応地域

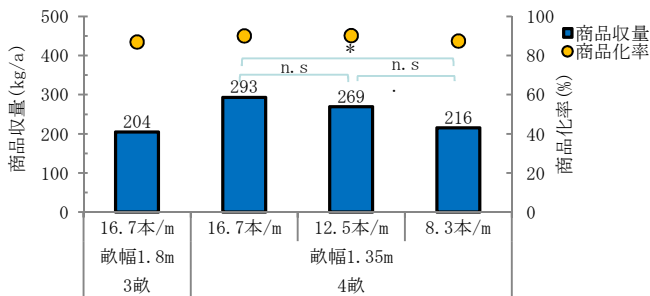
最低気温が-4℃以下にならない年平均気温17~18℃の地域(南さつま市、日置市および阿久根市、出水市の沿岸地域等)

ハウス長期どりスナップエンドウの作式改善による増収対策技術

熊毛支場

栽培ポイント

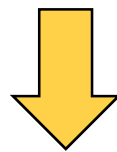
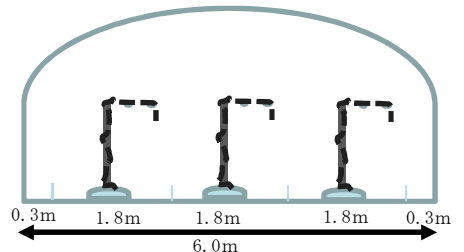
○3畝配置より4畝配置が多収
○4畝配置の場合、枝数は16.7本/m(播種穴12cm, 1穴2粒播種の2本仕立て)が最も多収
○商品収量約300kg/aが可能



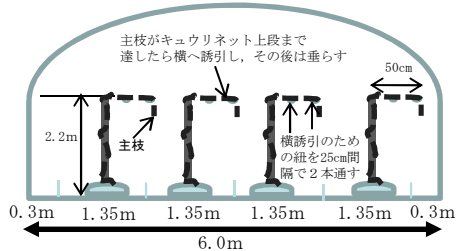
適応対象

県内全域

★3畝栽培から



★4畝栽培へ



多畝でも作業性は問題なし

スナップエンドウのハウス多畝栽培による高収益化

土着天敵の機能を引き出す新たな植生管理技術でスナップエンドウの害虫被害軽減

生産環境部

技術ポイント

○スナップエンドウは天敵の定着が困難な作物
○スナップエンドウの周囲に天敵温存植物を植えると、害虫を誘引する「おとり機能」と天敵の捕食効果で難敵アザミウマを抑え、スナップエンドウへの侵入量を抑制し、莢の被害(白ぶくれ症)を軽減
○障壁植物(ソルゴー)との併用で害虫の侵入をダブルブロック

天敵温存植物上で働く天敵

天敵温存植物	天敵	天敵温存植物	天敵
ソバ	ヒメハナカメムシ	ゴマ	タバコカスミカメ
ホーリーバジル		フウチョウソウ(クレオメ)	

通常の栽培



アザミウマは直接エンドウへ

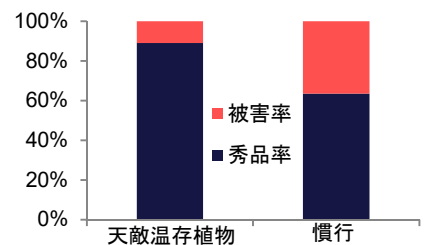
新たな植生管理技術

★ソルゴーの壁でブロック



★天敵温存植物の「おとり機能」 + 天敵の捕食
エンドウへの侵入量減

新たな植生管理で被害は1/3へ



適応地域

県内全域

(公募:農食事業)

1～2月どりレタスの有望品種と地帯別、被覆法別定植適期の推定

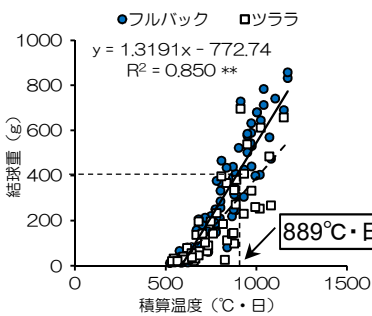
大隅支場・熊本支場

特徴

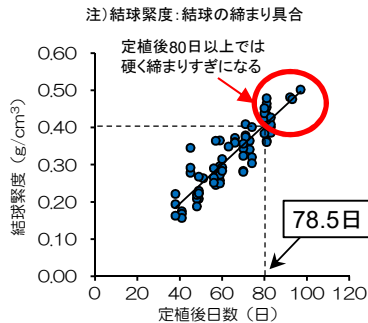
① 低温肥大性に優れた品種として「フルバック」が有望

- ・慣行品種「ツララ」に比べて低温肥大性が優れる
- ・結球重400gで良品を収穫するための適地条件を明確化

→ 定植後80日程度で積算温度890°C・日を確保できる地帯



積算温度と結球重の関係



定植後日数と結球緊度(緊度0.4を超えると硬く締まりすぎ)

② 適地条件と平均気温の平年値から各地域の定植適期を設定可能

○指宿地域における定植日と収穫日

播種日	定植日	PO被覆	不織布被覆	無被覆
		収穫日	収穫日	収穫日
10月5日	10月30日	12月29日	1月2日	1月8日
10月10日	11月5日	1月9日	1月12日	1月20日
10月20日	11月15日	1月27日	1月30日	
10月30日	11月25日	2月12日		
11月10日	12月5日			

品質不適(硬く締まりすぎる)

○熊毛地域における定植日と収穫日

播種日	定植日	無被覆
		収穫日
10月15日	11月10日	1月8日
10月20日	11月15日	1月17日
10月31日	11月25日	2月5日
11月10日	12月5日	2月20日
11月15日	12月10日	2月26日



硬く締まりすぎ(結球緊度:0.4g/cm³以上)

適応地域

県内全域

加工・業務用キャベツを11月から5月に出荷する作型の適品種

大隅支場

特徴

11～5月どり作型の適品種

品種名	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
T-532	●	×			■					
TCA-422	●	×				■				
夢ごろも 夢舞台	●	×				■				
YR銀次郎	●	×					■			
青龍345 冬ぐり 冬のぼり 夢ごろも	●	●	×					■		
若隅3号			●		×				■	
おきな				●		×				■

●:播種期, ×:定植期, ■:収穫期

○継続的安定生産が可能

○適品種は既存品種よりも大玉で、収量増加

- *加工・業務用キャベツに適する品種とは
- ・大玉(結球重1,800g以上)である
- ・在圃性が高い(裂球が少ない)
- ・内部障害の発生が少ない
- ・カット後のボリュームが損なわれず、水分のしみ出しが少ない



内部障害の様子



カット工場で廃棄されたキャベツ

写真提供:大隅加工技術研究センター

適応地域

県本土全域

土壌の地力窒素レベルに応じたキャベツの窒素施肥量

生産環境部

栽培ポイント

- 畑土壌の地力窒素(可給態窒素)を簡易測定できる(図1)
- 地力窒素は地温が高いほど発現量が多く、時期によって窒素肥料として換算できる量が異なる(図2)
- キャベツの作型ごとに、地力窒素レベルに応じた窒素施肥量を取りまとめた(表1)

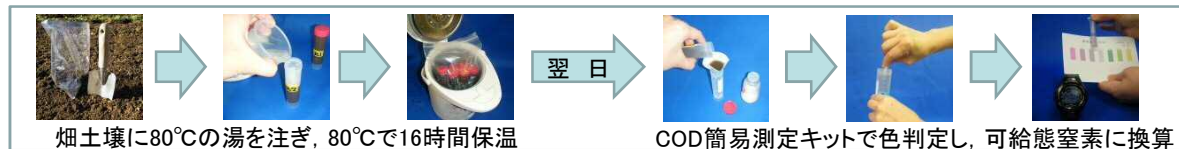


図1 地力窒素(可給態窒素)の簡易測定法

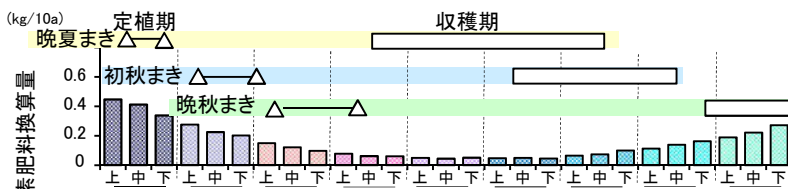


図2 キャベツ作型と可給態窒素の窒素肥料換算量

表1 キャベツ作型別の地力窒素と窒素施肥

作型	換算量(kg/10a)	注1)可給態窒素(mg/100g)と施肥窒素量(kg/10a) 注2)				
		1	2	3(標準)	4	5
晩夏まき	2.1	19.2	17.1	15.0	12.9	10.8
初秋まき	0.8	16.6	15.8	15.0	14.2	13.4
晩秋まき	1.4	17.8	16.4	15.0	13.6	12.2

注1)換算量は、地力窒素1mg/100gが、施肥窒素で何kg/10aに相当するか、図2から求めた量

2)県の施肥基準である15.0kg/10aを標準とした場合の施肥量で、地域の基準がある場合には、その基準量から加減

適応地域

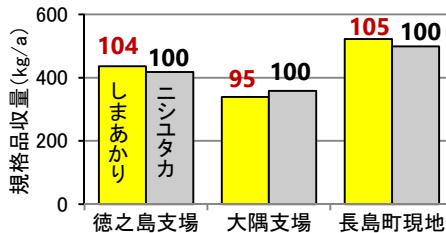
県内全域

(公募:農水省委託プロ「適正施肥」)

鹿児島県が育成したジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有する丸系ジャガイモ「しまあかり」、長系ジャガイモ「しまクイーン」

大隅支場

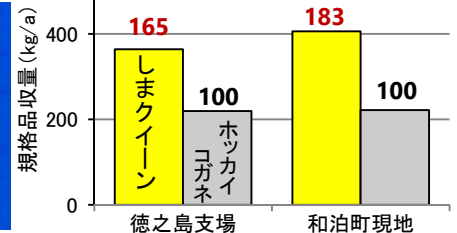
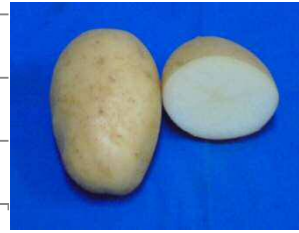
特徴 「しまあかり」



- 交配組み合わせは、「デジマ」×「アローワ」
- 形状は「ニシユタカ」と同じ丸系の“短卵形”
- 皮色は“淡ベージュ”，肉色は“淡黄”
- 外観は目の深さが極浅く，表皮が滑らかで優れる
- 収量は「ニシユタカ」と同程度
- そうか病抵抗性は，「ニシユタカ」と同程度
- 食味は“良～やや良”で「ニシユタカ」より優れる

適応地域 徳之島，本土を中心とした丸系ジャガイモ産地

特徴 「しまクイーン」



- 交配組み合わせは，「ニシユタカ」×「アローワ」
- 形状は「ホツカイコガネ」と同じ長系の“卵～長卵形”
- 皮色は“淡ベージュ”，肉色は“白”
- 外観は目の深さが極浅く，表皮が滑らかで優れる
- 奄美地域での収量は「ホツカイコガネ」以上
- そうか病抵抗性が“強～やや強”
- 食味は“やや良”で「ホツカイコガネ」より優れる

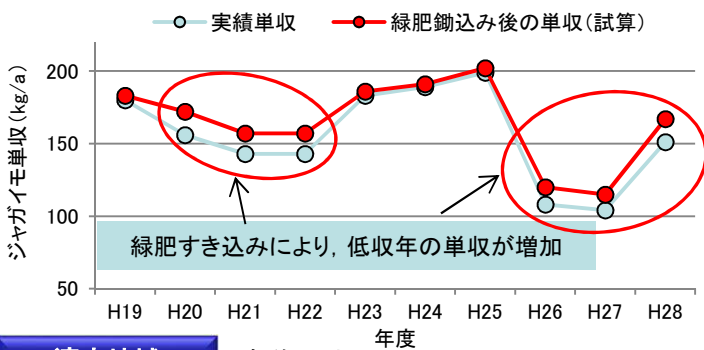
適応地域 沖永良部島を中心とした長系ジャガイモ産地

冬播き緑肥鋤込みによるジャガイモ増収効果

徳之島支場

特徴

- 冬播き緑肥(エンバク)を鋤込むことで，低単収年のジャガイモ収量の引き上げが可能
- 緑肥(エンバク)の播種時期は2月下旬から3月中旬
- 鋤込む時期は緑肥(エンバク)の出穂期



適応地域 奄美地域

ジャガイモ掘取り・緑肥播種を同時に行う省力的緑肥栽培技術

徳之島支場

特徴

- ジャガイモ掘取り機に除草剤散布機等を取り付けることで，掘り取りと緑肥(エンバク)播種の同時作業が可能
- 播種期は，3月20日までが望ましい



ジャガイモ掘取りと緑肥同時播種の様子



除草剤散布機

適応地域 奄美地域

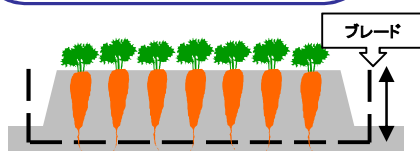
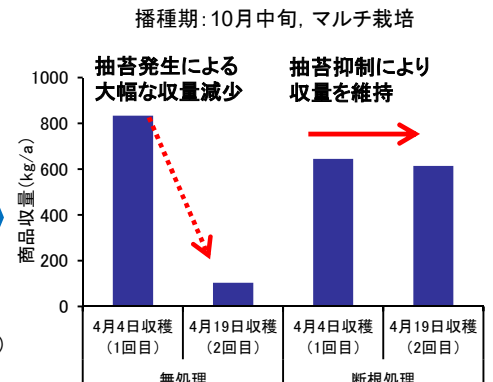
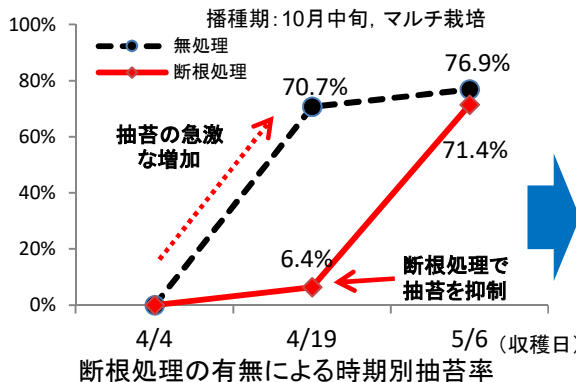
4月どりニンジンの断根処理による収穫期延長技術

～ 大規模経営体の収穫期分散に有効 ～

大隅支場

特徴

- 4月収穫の作型は抽苔が発生しやすい
- 断根処理を行うことで抽苔発生を遅らせることが可能
- 断根処理方法
 - ・ニンジン掘り取り機を使用
 - ・ブレードは畝面と水平に設定
 - ・処理深さは20cm
 - ・処理時期は3月上旬



ニンジン掘り取り機

断根処理の様子

断根処理により収穫期間を最大約2週間延長し，収量を確保

適応地域 県内全域

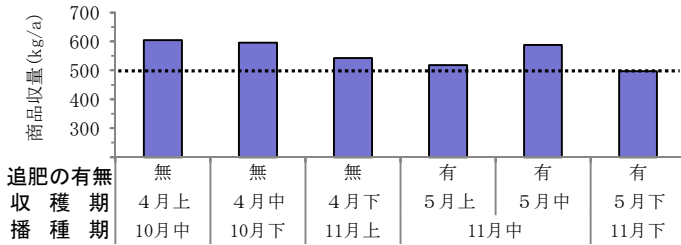
熊毛地域におけるニンジンの無被覆・無マルチ栽培による4~5月どり技術

熊毛支場

技術ポイント

- 10月中旬~11月上旬播種は、基肥のみで4月どりが可能
- 11月中旬~下旬播種は、基肥と追肥を2回行うことで5月どりが可能
- 5月どりの追肥方法

- ・1回目: 本葉4~5枚時, 2回目: 本葉7~8枚時 (N成分で1回当たり0.2kg/aを条間施用)



適応地域

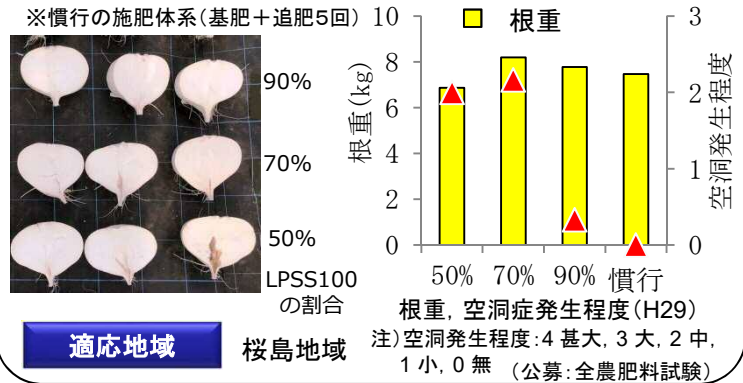
熊毛地域 (10月~5月までの平均気温が16°Cの地帯)

桜島大根「桜島おごじょ」の全量基肥による省力施肥技術

園芸作物部

技術ポイント

- 施肥する窒素量の90%をLPSS100とした全量基肥栽培により、根重・商品収量を確保しながら、空洞症を大幅に低減できる
- 追肥不要であるため、施肥労働時間は大幅に減少
- 慣行の肥料代と同等



適応地域

桜島地域

ダイコンのキスジノミハムシ防除に役立つ二層局所施肥機

大隅支場

特徴

- 作用の異なる2剤を最適な土層へ施肥
- 同時穴開けシーダマルチャに搭載、畝立て・施肥・播種・マルチの一行程作業
- 溝切りし下層施肥、崩土混和 播種位置で浅層施肥、覆土・混和し播種



フォース剤は浅層施肥で防除効果大

プリロツン剤は地下5cm施肥で防除効果大

効果的な施肥で被害を軽減

適応地域

県内全域

(公募: 全国農業改良普及支援協会)

ダイコンのキスジノミハムシに対する2種粒剤の併用による散布回数の削減

大隅支場

特徴

- ダイコンのキスジノミハムシは栽培期間中、繰り返し発生するため、これまでは播種時の粒剤処理と2~4回の地上部散布が必要
- 二層局所施肥機によりプリロツン粒剤を深さ約5cm、フォース粒剤を地表面に軽く攪拌しながら処理
- 発生が多い9月は地上部の散布は1回でも被害が軽減。また、発生が少なくなる10月は地上部の散布を行わなくても被害が軽減

9月は種(無処理)



9月は種(粒剤併用+地上部1回散布)



散布回数の削減による労力減

被害軽減による商品価値の向上

適応地域

県内全域

(公募: 全国農業改良普及支援協会)

サトイモの優良種いも増殖に有効な湛水畝立て栽培法

園芸作物部・生産環境部・大隅支場

特徴

- 湛水畝立て栽培法は、水田で栽培し、葉数が5枚以上展開した6月から3か月程度、畝間に水を流しながら湛水するもの
- これにより、いも個数、重量が畑地栽培に比べて2割程度増加し、病害や障害の発生を軽減でき優良種いも生産が可能
- 本栽培法で生産された種いもは、畑地栽培由来の種いもと同等の収量が得られ、生産能力に差はなし



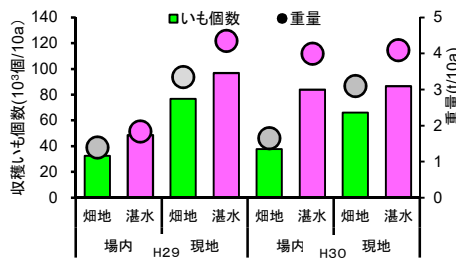
本葉5枚以上の6月から、用水路より水入れ



湛水1か月後、順調に生育

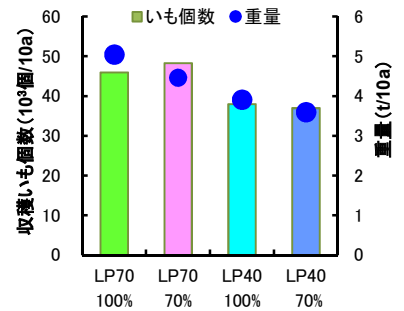
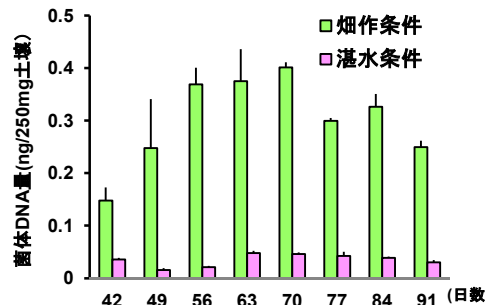
技術ポイント

- ◆ほ場の選定
 - 排水性の良好な水田が望ましい
- ◆栽培管理
 - 畝幅1mで畝立て黒マルチし、株間20~30cmで植付
 - 本葉5枚以上で湛水を開始
 - 用水路から畝間に水深10cm程度でかけ流す
 - 湛水期間は6月から3か月程度
- ◆施肥管理
 - 窒素施肥15kg/10aのうち7割を被覆尿素リニア型70日タイプ、3割を速効性窒素肥料で配合し、全量基肥(石川早生丸)
 - カリなどの土壤肥沃度維持のために、牛ふん堆肥の2t/10a施用が必要



収穫時のいもの着生状況(石川早生丸)

規格内の種いも個数と収量は2割程度増加(石川早生丸)



LP70 70%の規格内いも個数が最も多く、適する(農開セ: H28年度)

(公募: 革新的技術開発・緊急展開事業)

適応地域

サトイモ種いも生産農家

高能率！簡単操作！サトイモ子いも分離機

大隅支場

特徴

- 早生系品種の子いもと親いもの分離が容易
- 作業時間は手作業の1/4~1/5、損傷いも発生2~5%(手作業並)
- 操作は簡単、トラクタにも装着可能



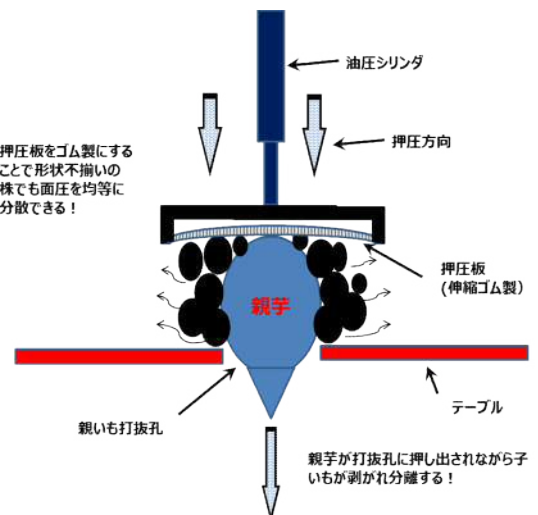
全長2m 幅1.4m 高1.6m
質量104kg(本体のみ)



簡単油圧操作



親イモ打抜孔(リング交換式)



(公募: 革新的技術開発・緊急展開事業)

適応地域

県内全域

根こぶ病抵抗性を有するナバナ新系統「鹿児島2号」の特性

園芸作物部

特性

- 根こぶ病抵抗性を有し、発生ほ場でも栽培可能
- 在来種「開聞1号」に比べて、開花始めはやや早い、開花期間は同程度



「鹿児島2号」

「開聞1号」

適応地域

指宿市の菜の花栽培地域

露地オクラ栽培で土着天敵を有効に活用するためのインセクタリープランツの簡易利用法

生産環境部

特徴

- オクラの生産期間を通じて土着天敵を活用するには、天敵温存機能の発現時期が異なる複数植物の利用が効果的
- ソバ(春機能型)とソルゴー(夏機能型)の混植で簡易なIPMが可能

植物	播種時期	機能時期
ソバ	4月上旬	5~6月
ソルゴー		7~8月

ソバで温存される主な天敵→

適応地域

県内オクラ生産地域



播種から約1か月後

ヒラタアブ類

ヒメハナカメムシ類

(公募:農食事業)

生物農薬「リモニカスカブリダニ」を施設野菜で効果的に使う条件

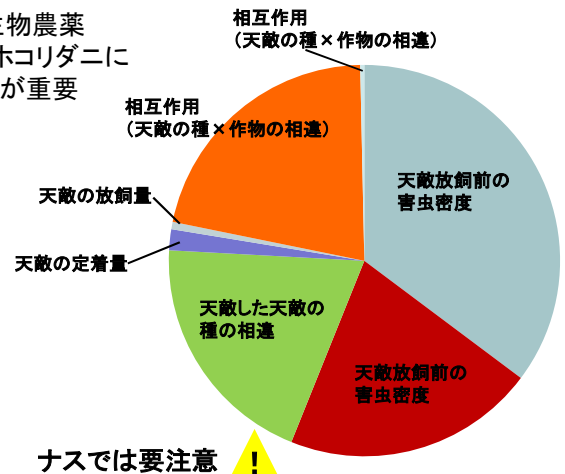
生産環境部

技術ポイント

- リモニカスカブリダニは、施設野菜の複数の微小害虫に対する有効な生物農薬
- スワルスキーカブリダニに比べて低温条件下で効果的に働くが、チャノホコリダニに対しては捕食量が劣るので、チャノホコリダニの発生前から導入することが重要

リモニカスカブリダニの防除効果に及ぼす要因解析(圃場での放飼試験結果から)

対象害虫	天敵	
	リモニカスカブリダニ	スワルスキーカブリダニ
アザミウマ	◎	○
コナジラミ	◎	◎
チャノホコリダニ	△	◎



ナスでは要注意!

(環境と調和した栽培技術確立事業)

適応地域

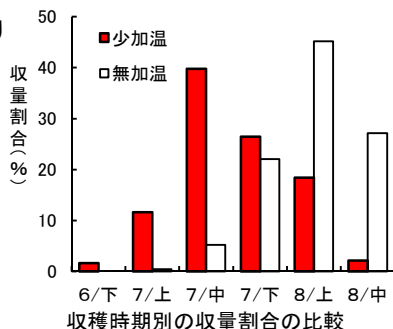
県内全域(施設野菜)

奄美地域におけるマンゴー「アーウィン」の少加温ハウス栽培

大島支場

特徴

- 少加温ハウス栽培は、2月下旬から1か月間、15℃から22℃まで段階的に昇温し、5月上旬まで22℃で加温する新作業重油使用量は4kl/10a
- 収穫期は、無加温栽培より2週間早く、7月までに8割程度収穫が可能
- 無加温栽培と組み合わせた作期拡大、労力分散、台風被害の危険分散が可能
- 農業所得は無加温栽培と同程度の約126万円



適応地域

奄美地域マンゴー栽培農家

緑茶用品種「せいめい」の炒蒸し製てん茶の品質特性

茶業部

特徴



一番茶てん茶と抹茶

- 早生品種で外観、内質が優れる
- 渋味のタンニンが少ない
- 旨味の遊離アミノ酸、テアニンが多い
- 「せいめい」の抹茶の色沢は、濃緑



- 炒蒸し製てん茶
- 炒蒸し機とネット型乾燥機により低コストで多量生産が可能

適応地域

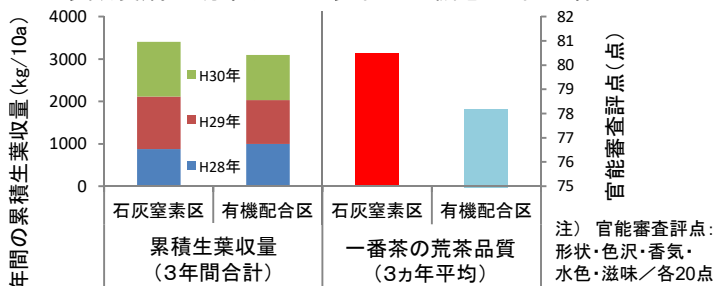
県内てん茶生産者
(公募:イノベーション創出強化研究推進事業26099C)

茶園年間施肥体系における石灰窒素の活用

茶業部

特徴

- 年間施肥窒素50kg/10aのうち、10kgを石灰窒素で代替（通常年は秋肥全量、更新年は深刈更新直後の夏肥）
- 石灰窒素を用いた体系は、現行の有機配合主体の体系と比較し、①収量品質が向上、②肥料費が3年間で15%削減
- 土壌酸度矯正効果及び土壌中の無機態窒素量増加



適応地域

県内黒ボク土壌茶園

ジアミド系薬剤に抵抗性を示すチャノホソガ対策

茶業部

技術ポイント

- 南薩地域では、ジアミド系薬剤のサムコルFL10、フェニックスFL、エクシレルSEに抵抗性を示すチャノホソガが出現
- 同じジアミド系でもテッパン液剤の効果は高い
- 薬剤抵抗性の出現を防ぐには、同一系統の連用を避ける

ジアミド系 薬剤名	希釈 倍率	死亡率(%)			
		卵期処理 (産卵1日後)		幼虫潜葉期処理 (産卵4日後)	
		平成25年	平成30年	平成25年	平成30年
サムコルFL10	4,000	100	64	88	40
フェニックスFL	2,000	-	13	-	7
エクシレルSE	2,000	-	100	-	60
テッパン液剤	2,000	-	100	-	93

注1) 平成25年及び平成30年の供試虫は南九州市の同一地点から採集 注2) -は未調査

適応地域

南薩地域の茶栽培農家

長雨で秋芽のチャ炭疽病体系防除が困難な場合の殺菌剤混用効果

茶業部

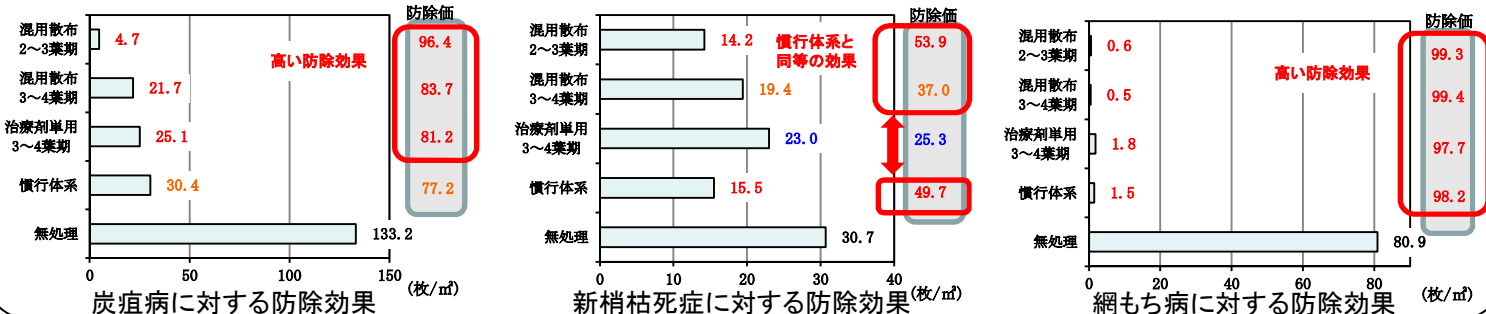
技術ポイント

- 残効性の高い予防剤ダコニール1000と治療効果の高いEBI剤(インダーフロアブル等)を混用する
- 2~3葉期の1回散布で、特に効果が高い
- 炭疽病、新梢枯死症、網もち病に対し、慣行の体系防除と同等以上の防除効果が得られる



適応地域

県内茶生産農家

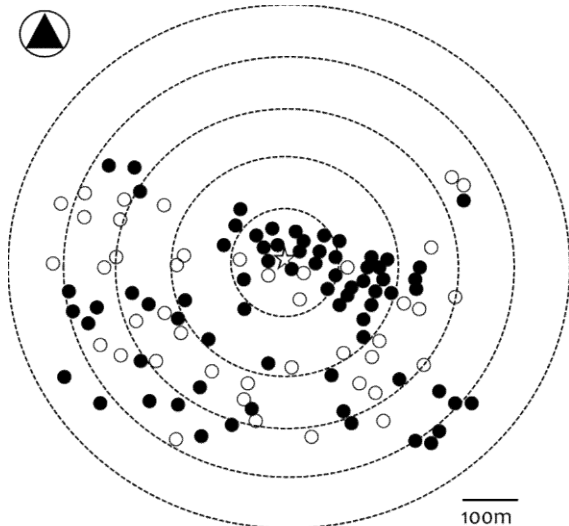


チャトゲコナジラミの天敵の早期定着を図る放飼地点間隔

茶業部

技術ポイント

- チャトゲコナジラミを抑える天敵はシルベストリコバチが有力
- 天敵が寄生した茶枝を網袋に入れて茶樹下に設置する「簡易放飼法」は、天敵の定着性が高く有効
- 放飼1年後の天敵は、放飼地点から放射状に500m程度分散
- 天敵を地域単位で1年以内の定着を図るには、放飼する茶園を1km間隔とする



放飼1年後の天敵定着地点
※☆放飼地点、●天敵定着地点、○天敵未定着地点

適応地域

チャトゲコナジラミの発生地域

遅播き栽培における飼料用トウモロコシ「PI2008(スノーデントおとは)」の栽培特性

畜産試験場

特徴

- 「SH9904(スノーデント王夏)」との比較
- 耐倒伏性に優れる
- 乾物収量は、1割程度多い
- 南方さび病抵抗性は、抵抗性品種「SH9904」と比較して同程度以上
- 暖地の春播きから遅播き、夏播き栽培まで利用できる品種で、RM(相対熟度)は127



提供: 農研機構九州沖縄農業研究センター

「PI2008」の栽培特性(H27~29, 試験地: 県畜産試験場)

品種名	発芽 良否	初期 生育	稈長 cm	着穂 高さ cm	倒伏 %	折損 %	病害			乾物収量			乾物総重 の対比較 %
							南方 さび病 1~9 基	ごま葉 枯病 1~9 基	すす 紋病 1~9 基	乾茎 葉重 kg/a	乾穂 重 kg/a	乾物 総重 kg/a	
PI2008	1~9 極良	1~9 極良	212	67	1.1	0.4	1.1	1.1	1.3	88.8	68.5	157.3	113.9
SH9904(指標)	8.0	7.7	212	95	5.5	1.9	2.0	1.2	1.1	85.5	52.6	138.1	100.0

※試験は遅播き(5月播種)で実施

適応地域

県内の乳用牛農家, 肉用牛農家
(公募: 高能力飼料作物品種選定調査委託事業)

イタリアンライグラス極早生品種「ヤヨイワセ」の栽培特性

畜産試験場

特徴

- 「さちあおば(極早生)」との比較
- 耐倒伏性は、同程度以上
- 乾物収量は、104%と同程度以上
- 耐病性は、同程度で強い
- いもち病抵抗性を有する



「ヤヨイワセ」の草姿

「ヤヨイワセ」の栽培特性(H27~29, 試験地: 県畜産試験場)

品種名	発芽 良否	定着 時 草勢	草丈		倒伏程度		病虫害程度		乾物収量		乾物収量 の対比較 %	
			1番草 cm	2番草 cm	1番草 1~9 基	2番草 1~9 基	1番草 1~9 基	2番草 1~9 基	1番草 kg/a	2番草 kg/a		
ヤヨイワセ	1~9 極良	1~9 極良	117	87	2.4	1.0	1.0	1.0	95.3	31.0	126.3	103.6
さちあおば(指標)	7.2	7.1	115	88	2.9	1.3	1.0	1.0	91.0	31.2	121.9	100.0

適応地域

県内の乳用牛農家, 肉用牛農家
(公募: 高能力飼料作物品種選定調査委託事業)

横斑プリマスロック雌種鶏の産卵率向上技術

畜産試験場

技術ポイント

○過肥になりやすい横斑プリマスロックの体重を育成期から制限給餌し、体重を適切にコントロールすることで産卵率が向上

- 1) 育成期(4~19週齢): 給餌量は不断給餌の60%程度(表1)
(目安: 46~110g/羽・日, 20週齢時体重 2,480g)
- 2) 成鶏期(20~63週齢): 産卵率に応じた給餌量により体重維持
(目安: 115~130g/羽・日の範囲で調整)

導入メリット

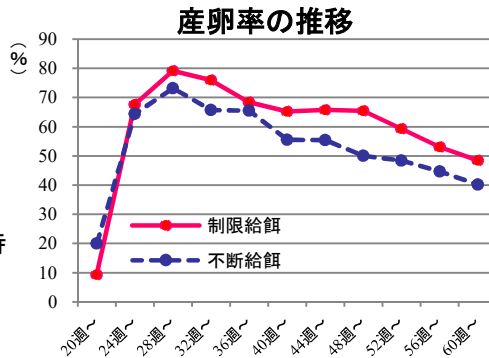
○制限給餌による飼料費の低減, 体重調整による事故の減少(生存率向上), 産卵率向上による種卵や素ひな生産数の増加(表2)

表1 育成期の給餌量(g/羽・日)

															(W:週令)
4W	5W	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W	14W	15W	16W	17W	18W	19W
46	60	75	80	85	90	90	90	90	95	100	105	105	105	105	110

表2 成鶏期の成績

	生存率 (%)	産卵率 (%)	飼料摂取量 (g/羽・日)	飼料費 (円/羽)
制限給餌	98.3	59.8	126.3	2,723
不断給餌	71.8	53.0	197.5	4,258



上記マニュアルで飼養管理技術を紹介

八重咲きテッポウユリ「咲八姫(さくやひめ)」の育成

果樹・花き部

特徴

- テッポウユリでは唯一の八重咲き品種
- 開花は「ひのもと」よりやや遅い
- 花数は「ひのもと」よりやや多い
- 立葉, 上向き咲きで草姿が良い
- 葉枯病に強い



「ひのもと」

「咲八姫」

適応地域

県内テッポウユリ球根生産農家



【お問い合わせ】 農業開発総合センター企画調整部(TEL 099-245-1118)
最寄りの支庁・地域振興局の普及担当課(農政普及課など)